

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	教職概論 (Introduction to Teaching Profession)		授業コード	K001752
担当教員名	首藤 眞一			
配当学年	1	開講期	後期	
必修・選択区分	教職必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	児童・生徒の人格の形成に係る教員としての教職必修科目であるという気概の下、受講してください。□ また、課題は毎週課し、演習等も多く取り入れますので、プレゼン能力等を身に付けてください。			
受講心得	各週の講義の際に、次回の課題を課します。日頃から教職関係の書物に触れ、教職に係る新しい風には敏感であるよう心掛けてください。演習も多く取り入れていきますから、プレゼン能力も身に付けてください。			
教科書	改訂新版 「教職入門」ー 教師への道ー (図書文化社) □			
参考文献及び指定図書	「教職論」(ミネルバ書房)、他に適宜指示します。 □			
関連科目	教育原理、教育心理学、青年心理学、教育実習、生徒指導、教育相談、その他教職関係科目 □			

授業の目的	<p>教職概論は教育職員免許法で定められた「教職に関する科目」の一つである「教職の意義等に関する科目」に対応した教職必修科目です。</p> <p>教育は、児童・生徒の人格の完成を目的としております。将来、教員免許を取得し、教師を目指すために必要な教職に係る理解を深めるとともに、皆さんが必要となる資質や能力の養成を図る。</p> <p>特に、教師としての在り方生き方を身に付けることができるよう知識・技能や理解力及び実践的指導力等の基礎的能力の養成を目的とする。</p> <p>また、この講義の他のもう一つの目的は学生の皆さんが教職に適性をもっているかを自分自身で判断する材料の提供です。</p> <p>□</p>
授業の概要	<p>児童生徒の人格形成を担う教員の職務、使命と役割、求められる資質能力、学習指導要領に基づく教科指導及び教科外の指導スキル、服務や身分保障など関係法規、諸外国の教育制などについて、講義が主体となるが、討論や課題研究、グループ討議及びCoachingなどの実践的演習等も多く取り入れていく。講義ではDVDやパワーポイント教材も活用する。 □</p>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<p>第1週：教職の意義と使命<1>「教師への道と教職概論の概要」</p> <p>教職とは何か、教職概論ではどのようなことを学ぶのかを概説し、教員として採用されるまでの道 (スケジュール)等についての理解と教師への展望について理解を深める。教員採用試験等にもふれ、最後に、目指す教師像についての論文課題を作成する。</p>	<p>・教育とは・教職とは・教職に係る国の施策の動向・職業に係る対象ものからの分類</p>
<p>第2週：教職の意義と使命<2>「使命と役割」</p> <p>教職とはどのようなものか、他の職種と比較しての特徴とその使命感等について講義する。また教育の根本指針である新旧の教育基本法についての理解を図るとともに、知、感性、実践の3領域にわたる教育の目的・目標を探究する。</p>	<p>・教育職員免許法・授業と人格形成・21世紀を展望した我が国の教育の在り方・エミール、ソクラテスの産産術</p>
<p>第3週：教員の職務と校務分掌</p> <p>教員の職務内容、学校の組織と機構、校務分掌および職員会議や学校評議員制度と今後求められる教員の資質・能力について学習するとともに、教育関連3法案の改正についてその主旨や目的、内容を探究する。</p>	<p>・学校組織・教職員の職務 ・新しい職・教育関連3法案 ・ブルーナ「教育の過程」</p>
<p>第4週：教職員研修の意義と方法</p>	

<p>教職員研修の必要性及び法的研修である初任者研修をはじめその他の研修にふれ、教職員研修の義務とその意義について学習する。また、研修方法(OJTなど)とその内容についての理解するとともに、時代に求められている教員の資質・能力等を探究する。</p>	<p>・特色ある学校づくり、開かれた学校づくり、説明責任と公平公正の確保・ライフステージに応じた研修・研修の義務と権利</p>
<p>第5週：教員の服務と身分保障 教育公務員としての教員がその職務を遂行する上で服さねばならない様々な服務規定等や他の公務員にはない身分保障制度や勤務条件・給与等について探究する。また、不適格教員増加の要因を探る。</p>	<p>・不適格教員・不易と流行・身分上の義務と職務上の義務・身分保障の限界</p>
<p>第6週：法規演習「教員の身分と服務義務」 各回の講義の中でもふれているが、ここでは地方公務員法、教育公務員特例法、学校教育法等に関する体系的な法構成について説明するとともに、身分保障の限界、身分上の責務、職務上の責務に係る法規演習を通して法理解を図る。</p>	<p>・教育基本法、学校教育法、教育公務員特例法、地方公務員法など</p>
<p>第7週：学校教育活動「教科指導および教科外の指導と教員」<1> 教科指導の意義と目的、教科指導方法の工夫・改善と指導評価の在り方等について学習する。また、教科外の指導の領域とその目的及びその特質に際した実践的指導能力の向上について講義する。特に、学級活動(ホームルーム活動)や総合的な学習の時間、道徳等の実践例の演習により実践的指導能力の開発を探究する。</p>	<p>・学習指導要領の変遷と目的および法的拘束力・教科外の指導領域</p>
<p>第8週：学校教育活動「教科指導および教科外の指導と教員」<2> 取得予定免許教科の目的および内容について理解するとともに、系統学習型指導法、問題解決型指導法の指導例と学習指導案並びに総合的な学習に係る教材を作成する。特別活動の3つの内容に係る性質と機能について理解を深める。</p>	<p>・主知主義的教育観と経験主義的教育観・ピグマリオン効果</p>
<p>第9週：学校教育活動「教科指導および教科外の指導と教員」<3> 生徒指導は学校教育全体を通して組織的・計画的・継続的に教員が中心となり、健全な青少年の育成を目指して全ての生徒に対して行われる教育的支援活動であることを鑑み、入念な配慮の下で行われなければならない。ここでは生徒指導(進路指導、教育相談)の意義と在り方および課題について探究する。</p>	<p>・特性・因子理論、構造理論、職業的発達理論・在り方生き方教育・カウンセリングマインド</p>
<p>第10週：教科外の指導「人間関係能力の開発」 生徒指導・進路指導及び教育相談の基本理念とその在り方及び原理と役割について再度確認する。また、今後の国際化に備え、USAにおける生徒指導に係る基本的姿勢を考察する。 Coachingに係る学校におけるDVD観賞及び実際演習から Coaching理論を学校教育の場で活用できるようにそのスキルの深化を図る。学校教育における生徒指導活動はスキルである前に、「人間観」を基盤とし、可能性を引き出す適切なサポート役であることの再確認する。</p>	<p>・CommunicationとCoaching・指示命令型、質問提案型 Communication・GRROWモデル</p>
<p>第11週：教職員の必須事項と特別支援教育の在り方 講義のまとめとして、教職員の資格要件や教員の特性など教育公務員としての在り方についての再認識と教師としての自覚について講義する。また、国の法制化等に伴い今後、特に重要となる特別支援教育の在り方および教員の特性と在り方について探究する。</p>	<p>・教職員の資格要件と欠格事項・地方公務員法・教員評価システム・特別支援法と特別支援教育</p>
<p>第12週：学校教育活動の危機管理に係る事例研究と演習 班別事例研究と発表：授業中や生徒指導、教育相談、家庭や地域との連携、清掃活動、部活動等に係る事例を研究し、その対応策、支援策、解決策等についての演習を図るとともに、危機管理の具体的な在り方を探究する。</p>	<p>・法的な面と教育的な面・国家賠償法・Maslowの欲求5段階層・説明責任・プレゼン能力・人間関係能力</p>
<p>第13週：教員養成と教職課程および教職の専門性について 我が国における教員養成と大学等における教職課程等を諸外国のものと比較することにより、教員の養成、採用、研修のシステムを理解し、教員としての資質能力の向上への気概について講義する。併せて、これまでの受講から教職への意欲や適性等を熟考し、各自の進路選択への考察を図るとともに、教職の専門性について探究する。</p>	<p>・教職課程と履修心得再確認・ILO・UNESCO共同勧告「教員の地位に関する勧告」</p>
<p>第14週：諸外国の教育制度</p>	

<p>今後の国際化の一層の進展を迎えるに当たり、諸外国の教育制度及び特徴的な教育を比較検討することにより、制度面も含め、我が国の今後の教育の在り方を探究する。</p>		<p>・諸外国の学校系統図・規制緩和と流行・メリットペイとアカウンタビリティー・危機に立つ国家・Lesson Study</p>
<p>第15週：学校教育における新しい動向について 教育も、時代からの新しい風の影響を受けている。教職概論のしめくりとして、不易と流行の概念を踏まえ。国の教育関係法令等の改正や教育関係各種委員会での検討事項も含め、最近の国内外の教育動向について洞察する。</p>		<p>・教育課程審議会・中央教育審議会・国会審議事項・学制問題・大学秋季入学関係</p>
<p>第16週：期末試験 講義内容のすべてを試験範囲とする。試験時間は80分。</p>		<p>試験問題</p>
<p>授業の運営方法</p>	<p>(1)授業の形式</p>	<p>「講義形式」</p>
	<p>(2)複数担当の場合の方式</p>	
	<p>(3)アクティブ・ラーニング</p>	
<p>備考</p>		

<p>○単位を修得するために達成すべき到達目標</p>	
<p>【関心・意欲・態度】</p>	<p>①子どもへの深い愛情を持ち、人格形成に携わるという責務と意欲を高揚できる。</p>
<p>【知識・理解】</p>	<p>②学校の仕組み、教員の職務と責務が理解できる。③学校教育活動の仕組みと内容を理解できる。</p>
<p>【技能・表現・コミュニケーション】</p>	<p>④人間関係能力を身に付けることができる。⑤教科指導、学級経営能力を身に付けることができる。</p>
<p>【思考・判断・創造】</p>	<p>⑥自己の適性を判断できる。⑦子どもへの最適な支援方法を創造し、判断できる。</p>

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	50点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点	20点		
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	課題は毎週課しますが、提出課題についてはその都度指示します。達成水準の目安は以下のとおりです。[Sレベル] 達成すべき到達目標を満たす。[Aレベル]達成すべき到達目標を概ね満たす。
発表・その他 (無形成果)	提出課題以外の課題やその他の事項について質問の回答や発表等は記録しておき、評価の際の参考資料とします。